

4章

問題

【1】

解答

- (1) h (2) e (3) i (4) j
(5) b (6) f (7) a (8) g

解説

(1) h

「時間がわずかしかない。だから持てる時間を最大限に利用しなければならない。」

- make the most of ~ 「~を最大限に活かす」

(2) e

「誰も使うようなばかなまねはしない、下品な表現がいくつかある。」

- vulgar 「下品な」
- know better than to 不定詞 「…するようばかなことはしない」
原義は「…するよりも物がわかっている」ということ。

Ex. You should know better than to trust him.

(君は彼を信用するような愚は犯さないほうがいい。)

(3) i

「私は彼と話をしたことさえない。まして彼とあなたの抱える問題を話し合ったことなどない。」

- 否定文, much [still] less … 「~しない。まして…しない」
- 比較級を含む否定表現。

Ex. No explanation was offered, still less an apology.

(説明の申し出はなかった。まして謝罪などなかった。)

(4) j

「宗教に聖職者が必要でないのは、愛国心に政治家が必要でないのと同じだ。」

- A is no more B than C is D. 「AがBでないのは、CがDでないのと同じ」

(5) b

「文明国では最もありふれた労働者でさえ、未来の事を現在との関連で考えている。」

- 最上級の形容詞の用法に「~さえも」という意味を含む場合がある。

Ex. The wisest man sometimes makes mistakes.

(どんなに賢い人でも間違いをすることがある。)

※ 「最も賢い人は間違える」ではないので注意。

(6) f

「その市場をリードしている会社は12種類ものビールを醸造している。」

- 'no fewer than 数' は、数が多いことを強調する表現。

Ex. No fewer than 13 foreign ministers attended the session.

(13 人も外務大臣が会合に出席した。)

○ 'no less than 数' でも同意だが, (3) で優先される。

(7) a

「私は算数ではジェーンに劣るが, 歴史では勝っている。」

○ 逆接の but より前だから, 反対の「劣っている」になるはず。

○ be good [better] at ~ 「～がうまい」

cf. be bad [worse] at ~ 「～が下手である」

(8) g

「心の楽しみは, しばしば, 体の楽しみより優れているとみなされていた。」

○ A is superior to B = A is better than B

○ この型の比較をするのは, be superior [inferior ; senior ; junior] to ~ 「～より優れている [劣っている ; 年上である ; 年下である]」で, 「ラテン比較級」と呼ばれる。

【2】

解答・解説

(1) less

less + 原級 + than : 劣等比較

= not as [so] + 原級 + as

「この本はあの本よりも便利でない。」

(2) more [rather], than

not so much A as B = more B than A = rather B than A ; B rather than A (A よりむしろ B)

「彼は先生というよりも学者であった。」

(3) the less, two

2 者の内での比較なので比較級の前に the が付く。

less old = younger 《劣等比較》

「メアリーは彼より若い。」 = 「2 人の中で, メアリーの方が若い。」

(4) no more than

no more than ~ = only ~ (～しか)

「千円しか持っていない。」

(5) as many as

as many as ~ = no less than ~ (～も)

「昨夜のコンサートには 5,000 人もの人々がいた。」

(6) at least

at least = not less than (少なくとも)

「彼女は少なくとも 1 万円は持っている。」

【3】

解答・解説

(1) No *other* bird is stronger than an eagle.

「鷲ほど強い鳥はいない。」

(2) Iron is more useful than *all* the other metals.

= Iron is more useful than any other metal.

「鉄ほど便利な金属はない。」

(3) I have *never* seen so interesting a movie as this.

「これは今まで見た中で最も面白い映画だ。」

ever (最上級・比較級の強調「かつて；今までに」) ⇔ never (一度も…ない) の変換に注意する。'so + 形容詞 + a + 名詞' の語順にも注意。

【4】

A.

全訳

ドライバーの注意が出来る限り道路に向けられていなければならない時に、重要なあるいは興味ある情報を伝えているラジオによって、ドライバーの行動が不利に影響されるというのはあり得ることである。しかしカーラジオの使用と道路事故との関係については、何か関係があるにしても、証拠はまだ何も見つかっていない。

B.

全訳

まったくの独学 —— というのは、彼は多くの偉人たちがそうであるように、無から身を立ってきたのだから —— ではあったけれども、彼は多くの書を読み、多くの物を書いてきた人だった。

C.

全訳

最近の夢の研究から、夢を奪われた人間は、たとえ睡眠を奪われることがないにしても、それにもかかわらず現実に対処する能力が損なわれることがわかっている。彼は自分を悩ましている意識していない問題を、夢の中で解決することができないために、情緒的に不安定な状態になるのだ。

【5】

ポイント

2012年度一橋大学前期試験大問1の出題形式・内容に沿った演習問題。「危機管理」がテーマである。

解答

(1) インド洋での大地震の際、発展途上にある南・東南アジア地域には津波警報システムという危機に対処する社会基盤が整備されていなかったということ。(69字)

(2) 「全訳」の下線部②参照。

(3) 2001年のテロを機に、進歩した社会基盤にも不安を抱いた国民がより一層の対応を求めたから。(43字)

(4) d

(5) b

解説

(1) 先進国と対比して発展途上地域では、緊急時や自然災害に対応し得る社会基盤の欠如が顕著である。下線部①は、その具体例で、2004年12月26日に起きたインド洋スマトラ島沖地震の時に、インド洋各周辺国に津波警報システムがなかったことで、警告なく津波がそれらの地域を襲ったということが挙げられている。下線部が具体例であるので、これが裏づけとしての役割を果たす主張部分(第2段落冒頭)をふまえてまとめること。

(2)

- military force (s)「軍隊；軍事力」
- call in「呼び入れる；呼び込む」
- , deepening the crisis：付帯状況を表す分詞構文。
- A at the same time as B「Bと同時にA」
- trying to solve it：itはthe crisis

(3) 最終の2段落の内容にプライバシーが管理されるように変わったいきさつが述べられているが、特に最終段落がプライバシーの管理に焦点を当てて書かれている。下線部中のnow / the pastの境となるのは2001年のテロ攻撃であることを明示し、筆者が経験したアメリカの変化が国民の要請によるものだった点をまとめる。「社会基盤」は「インフラ」でも良い。

(4) in the first place「そもそも；まず第一に；最初から」

(5) take for granted「当たり前と思う」

全訳

危機は様々な形で訪れる。経済的な形で、政治的な形で、社会的な形で、軍事的な形で、環境的な形で。自然によってもたらされもすれば、人間の活動によってもたらされもする。換言すれば、運命がもたらしもすれば、愚行がもたらしもする。予測可能な時もあるれば、ほぼ何の警告もない時もある。

先進諸国には危機管理について最大限の手だてがある。発展途上の国々は緊急事態や災害に対処するための社会基盤施設や政治機構をおそらくは欠いている。例えば、インド洋での大規模な地震が、南アジアおよび東南アジアで巨大津波を引き起こした時、まずなんの警告も発せられぬままに津波が襲いかかってきたが、それはその地域にはGPS津波警報システムが皆無だったからだ。実際には、遠く離れたアメリカの地震学者らは事前にその地震を探知したが、警告を伝えるのにはうまくいかなかった。災害の後、国外からの救援を送ろうとしたが、これもまた多くの場所でうまくいかなかった。社会基盤施設が破壊されてしまったり、そもそも無かったりしたからだ。

しかしながら、先進国においてさえも、社会基盤施設の不足は壊滅的状况をもたらし得る。ハリケーン・カトリーナという形でニューオーリンズが大惨事に見舞われた際、1,800以上の人命が失われ、何十億ドルもの損害を被ったのだ。地理的な状況から、ミシシッピ川河口

近くの地域はこれまで繁栄した時期もたびたびあったが、常に洪水に見舞われる危険を抱えていた。合衆国の一部となる前でさえ、ミシシッピ川の威力を制御しようとする処置がとられていた。

しかしニューオーリンズはかつてアメリカで最も栄えた都市の一つであり、ハリケーンがやってくるまでは旅行者を大いに惹きつけていたが、人気のあるフレンチ・クォーター地区以外は貧困と犯罪が目立っていた。結果として、ハリケーンや洪水から町を守る防衛策は崩壊してしまった。

さらに重要な事として、町の行政的・社会的組織も崩壊してしまった。市内各所で暴動が起り、それに対する警察の対応もまた極めて暴力的であった。②軍隊が要請に応じて出動し、危機を解決しようと試みたが同時に悪化させもした。結局のところ、多くの個人やさらには外国から寄附された慈善的支援にもかかわらず、この自然災害は、市、州、連邦政府の各レベルにおけるお粗末な危機管理が原因で、範囲においても深刻度においても大きく拡大してしまった。

カトリーナによる災害に適切に対処されなかったこの実態は、町が貧しく、犯罪率が極めて高い事実と何らかの関係があるが、さらに広い視野のもとに置くことが重要である。そのわずか4年前に、ハイジャックされた航空機が世界貿易センタービルと国防省に突っ込み、アメリカ国民はこの全世界の注目の的となったテロリストの攻撃に打ちのめされてしまった。地震やハリケーンのように、災害が完全に自然の力に由来するものである時でさえ、各政府組織が危機に対して速やかに対応するためには、民主的な社会に暮らす人々にとって通常当然のこととなっている個人の自由が制限されることも含まれるだろう。商業活動は取りやめになり、住人は退避を強いられることもありうるのだ。

アメリカ国内に限らず、2001年のテロ攻撃への対応により個人の権利が大きいとはいえないがしろにされることになった。たった1日にして、自分たちの進歩した社会基盤さえ安全とは言えないこと、どの国の政府の統制下にもない実態の分からない敵からの攻撃に対し脆弱であることが、はっきりとわかってしまったのだ。恐れをきたした人々は対応を求めた。1年後、私の生まれたアメリカを訪れてみると、そこはすっかり様変わりした国だった。監視カメラ、X線透視装置、金属探知機があり、学校でも図書館でも鉄道の駅でも空港でも、ありとあらゆる公共の建物には監視員がいた。今や、指紋や他の個人識別生体情報が慣例化して採取されている。かつては一般市民に保証されていた私的自由の権利は今日、昔日のものとなってしまった。

注

- ℓ. 1 ◇ crises (複数形) < crisis (単数形)
- ℓ. 2 ◇ be brought about < bring about : cause to happen, occur or exist
◇ folly : a foolish act or idea
- ℓ. 5 ◇ infrastructure : the fundamental facilities and systems serving a country, city, or area, as transportation and communication systems, power plants, and schools
◇ cope with : to face and deal with responsibilities, problems, or difficulties
- ℓ. 8 ◇ seismologist < seismology : the science or study of earthquakes and their phenomena

- ℓ. 9 ◇ frustrate : to make (plans, efforts, etc.) worthless or of no avail
- ℓ. 13 ◇ devastating : extremely effective in a destructive way
- ℓ. 14 ◇ catastrophe : a sudden, violent disturbance, especially of a part of the surface of the earth
- ℓ. 15 ◇ geographical : of or pertaining to the natural features, population, industries, etc., of a region or regions
- ℓ. 16 ◇ thriving : booming, flourishing, palmy, prospering, prosperous
- ℓ. 23 ◇ rioting : a disturbance of the public peace by three or more persons acting together in a disrupting and tumultuous manner in carrying out their private purposes
- ℓ. 27 ◇ scope : extent or range of view, outlook, application, operation, effectiveness, etc.
- ℓ. 33 ◇ the Pentagon : a building in Arlington, Virginia, having a plan in the form of a regular pentagon, containing most U.S. Defense Department offices
- ℓ. 40 ◇ vulnerable : (of a place) open to assault; difficult to defend
- ℓ. 44 ◇ biometric : using a person's unique physical and other traits for the purposes of identification and security

【6】

解答

- (1) c
- (2) b
- (3) so strange a noise as this excited
- (4) その老人の運命の時〔死ぬべき時；殺害の時〕が来たのだ！
- (5) bed
- (6) 「全訳」の下線部③参照。

解説

- (1) すぐ後にある every moment と同様に every instant で「刻一刻と」という意味になる。in an instant は「間もなく」の意味。
 - a instance 「事例」
 - b incidence 「発生（率）」
 - d incident 「事件」
 - e instantaneous 「瞬間的な」
- (2) “I am happy.” “So am I.”（「私は幸せです。」「私もです。」）と “You are happy.” “So I am.”（「あなたは幸せですね。」「その通りです。」）の違いを問うもの。「私は神経質だと言ったことに注目してくれますか？」という発言に続き、「その通り（私は神経質なのです）」と続けている。
- (3) so ~ as ...（…くらい～）の形にする。so は副詞であるから直接 ‘a + 形容詞 + 名詞’ を修飾できず、‘so + 形容詞 + a + 名詞’ の語順になる。例えば、He is such an honest man that he is respected by everyone. = He is so honest a man that he is respected by

everyone. (彼は誰からも尊敬されるくらい正直な人間だ。)と同じ。such a strange noise as this = so strange a noise as this となる。

- (4) 下線部に続く内容を見ると、「私が部屋に入るとその老人は一度だけ叫び声をあげ、その後その老人を床に引きずり出し、やがてその老人が死んでいる」という記述が続く。つまり私はついにその老人を殺害したのであり、the old man's hour とは老人を殺害する時(老人が死ぬべき時)であることが想像できよう。なお、下線部の前の文とこの文“the sound would be heard by a neighbour! The old man's hour had come!”は“a new anxiety”の内容を間接話法的に表しているため、「私」の立場から直接話法として訳した方がよい。つまり“This sound will be heard by a neighbour! This old man's hour has come!”という風に訳すとよい。
- (5) 空所の直後に「私」は死体を調べているが、既に「私」は重たいベッドを老人の上に乗っけている(“pulled the heavy bed over him”)のである。つまりそのベッドを取り去らないと死体を調べることは出来まい。
- (6) 全体として警官たちが述べた発言内容が間接話法的に書かれている。そのため直接話法的に読み替えて訳した方が分かりやすいだろう。

全訳

しかしそれでも私は気持ちをこらえてじっとしていました。息もほとんどしませんでした。手提げランプもじっと持っていました。どれほどしっかりと光線をその眼に当てたままでいられるか試していました。しかしそうするうちにも、悪魔のような心臓の脈動は大きくなっていきました。だんだんと威勢がよくなり、どんどん大きな音になっていきました。その老人の恐怖は極限に達していたに違いありません！ その音はさらに大きくどんどん大きくなったのです！ 私が神経質であると話したことを気に留めておいてもらえますか？ まさしくその通りです。そして今や真夜中、あの古い屋敷の恐ろしい静けさの中、このような異様な音が私を耐え難い恐怖へと駆り立てたのです。それでももうしばらくの間は自分の気持ちをこらえてじっと立っていました。ところが鼓動はいっそう大きく、さらに大きくなっていきました。心臓が破裂してしまうと思いました。すると今度は新たな不安に駆られたのです。この音はたぶん隣家の住人にも聞こえてしまうだろう！ もう来るべき時が来たのだ！ 大きい叫び声と共に私はランプの覆いをさっと外して、部屋の中に飛び込みました。老人は一度だけ悲鳴を上げました。たったの一度だけ。すぐさま私は老人を床に引きずり降ろして重いベッドを動かして老人をその下敷きにしました。事がここまで終わったことに気付いて、私は陽気にほほ笑んだのです。もっともしばらくの間、心臓の鼓動は、かすかな音で鳴り続けていました。しかしこれに苛立つことはありませんでした。よもや壁越しに隣人に聞こえることはないでしょう。やがて音は止まりました。老人は死んだのです。私はベッドをどけて老人の死体を調べました。やはり、老人は石のように、完全に死んでいました。私は老人の胸に手をおいて何分間もそのままにしていました。心臓の鼓動はありませんでした。完全に死んだのです。もはやあの眼に苦しめられることもないでしょう。とうとう私は、彼の死体を床下にうち捨ててしまいました！

こうした全ての作業を終わらせた時、もう午前4時でした。依然、外は真夜中のように真っ暗でした。4時の鐘が鳴った時、玄関の戸を叩く音が聞こえました。私は軽やかな気分を下

へ降りて玄関を開けました。というのは、今や何を恐れるというのですか？ 3人の男性が入ってきて、柔らかな態度で、自分たちは警官だと身元を明かしました。③隣人が夜中にある悲鳴を聞いて、何か悪いことでも起こったのではという疑いが生じ、警察に通報してきたので、自分たち警官が屋敷を捜査することを任されたのです、と言いました。

【7】

解答

- (1) a (2) b (3) c

解説

- (1) a 「AはBほど大きくない。」

b 「AはBと同じ大きさである。」

c 「AはBと大きさは同じである。」

文字通りには「AはBよりゼロだけ大きい。」となる。noの基本的シンボルは「ゼロ」。ここでは形容詞 larger を修飾しているため、「差を表す副詞」の働きをしている。

d 「AはBとちょうど同じ大きさである。」

- (2) a 「Cの2倍はDの3倍と等しい。」

b 「CはDの3分の2の大きさである。」

c 「CはDの1.5倍の大きさである。」

d 「CはDの1.5倍の大きさである。」

as ~ again as ... で「...の2倍～」の意味。

cf. half as ~ again as ... 「...の1.5倍～；...のさらに半分だけ～」

- (3) a 「EはFの2倍の大きさである。」

b 「Eの半分はFに等しい。」

be equal to ~ (～に等しい)

c 「EはFの半分の大きさである。」

d 「Eを半分に切るとFが2つになる。」

cut ~ in half (～を半分に切る)

【8】

解答

- (1) a (2) a (3) a (4) a (5) c
 (6) c (7) c (8) c (9) b (10) c

解説

- (1) a

「霜は、周りの丘陵地帯よりも盆地や低地によく降る。」

- frequently 「頻繁に」の意の副詞。比較級は、more frequently である。語尾が -ly で終わる副詞の比較級は more を用いる。ここで比較されているのは、in valleys and on low ground と on adjacent hills であり、空所直後の on に惑わされて、than のない b

を選ばないように注意。

- valley 「周囲より低くなった土地；谷間；盆地」
日本語の「谷」とは異なる。山と山に挟まれた、なだらかで広い土地を指すことが多い。
しばしば川が流れている。
- adjacent = next to or near something

(2) a

「彼女はほとんど私たちを見ようとしなかった。ましてや話しかけることなどなかった。」

- still less *do* で「まして…しない」という意味。(= much less *do*)
- scarcely 「ほとんど～ない」(= hardly)
- bother to *do* 「わざわざ…する」通常、否定文で用いる。

(3) a

「ブラジルではサッカーほど人気のあるスポーツは他にない。」

- ‘否定語～+ so [as] + 原級+ as …’で「何も…ほど～ない」という意味になる。
Ex. No dictionary is so useful as this. (これほど役に立つ辞書はない。)

(4) a

「東京の人口は大阪のそれよりも大きい。」

- population (人口) の「多い」「少ない」は large / small と表現する。
- that は the population を指す。

(5) c

「その男は自分の名前をサインすることさえできない。」

- not so much as *do* で「…さえしない」という意味になる。
Ex. She did not so much as smile at the audience.

(彼女は聴衆にほほ笑むことさえしなかった。)

(6) c

「日本にあるディズニーの遊園地は、フロリダやカリフォルニアにあるものよりも大きい。」

- ones は amusement parks の代わりに用いられている。
- an amusement park 「遊園地」

(7) c

「株価が下落すればするほど金の価格が上昇するということは一般的に正しい。」

- ‘The + 比較級～, the + 比較級 …’ 「～すればするほど、それだけますます…」
Ex. The more you practice, the more you will improve.

(練習すればするほど上達する。)

- stock market 「株価；株式市場」

(8) c

「光は音よりもずっと速く伝わる。」

- 最上級を強める時には much を用いる。by far や very を用いることもある。
- travel 「(音・光・知らせなどが) 伝わる」

(9) b

「彼は父親とほぼ同じ身長だ。」

- almost は通例，修飾する語句の前に置く。

(10) c

「最も有能なチンパンジーでさえ空が飛べないのと同じように，話すことはできない。」

- A is no more B than C is D. (AがBでないのは，CがDではないのと同じだ。) の構文。

【9】

解答・解説

(1) (Mary) has as attractive a personality as her sister.

- 'as + 形容詞 + 冠詞 + 名詞' の語順になることに注意。

(2) (We are not) so happy or unhappy as we imagine ourselves to be.

- not so [as] ~ as ... 「…ほど～でない」
- imagine O (to be) C 「OがCだと想像する」

(3) (He works) not so much for money as for the work itself.

別解 (He works) not for money so much as for the work itself.

- not so much A as B = not A so much as B 「AというよりはむしろB」
- itself は強調用法の再帰代名詞で the work を強めている。

(4) (The man) who had been shot was as good as dead.

- as good as ... 「…も同然で」

(5) He regards it as so much labor lost [lost labor].

- so much = the same quantity of 「それと同じだけの」

5章

問題

【1】

ポイント

冠詞の有無やその用法に関しては昔から日本人の苦手分野と言われてきた。これを克服するには、基本的な用法をしっかりと覚えた上で各論に入っていく他はない。ここでは基本的な用法を確認しよう。

解答・解説

(1) to school → to the school

「ノアの父は彼の問題について担任と相談するために学校に行った。」

一般に go to school が無冠詞なのは‘建物としての学校’ではなく、勉強するためという‘本来の目的・機能を持った学校’だからである。本問は、「教師との話をするという目的で‘その学校という建物’に行った」という状況なので the を入れる。

(2) in a danger → in danger, friend → the [his] friend,

in car → in a car [by car]

「ボーンは自分達が危険にさらされていると感じたため、その友人と車で逃走した。」

○ be in danger (of ~) 「(~という) 危険な状況で」

Ex. This animal is in danger of extinction.

(この動物は絶滅の危機に瀕している。)

○ friend は普通名詞であるから冠詞が必要。

○ ‘交通手段’を表す際に前置詞 by を用いる場合, by car, by train, by air などと無冠詞が原則であるが(例外は by the 12:10 train など), by 以外の場合には, in a car, on [in] a train, in [on] a plane などと冠詞をつける。

(3) beauty → a beauty, at the first glance → at first glance

「私は美人と出会った。一目見て彼女に釘付けになった。」

beauty 単独では抽象名詞「美しさ」となるが、特定して「その美しさ」とか「美しい人」の意味では冠詞をつける。at first glance (一目見て) は決まり文句であるから覚えておく。

(4) a first → the first, a President → President, United → the United

「バラク・オバマ氏は合衆国大統領に選ばれた最初のアフリカ系アメリカ人だ。」

一人の人だけが占める‘特定の地位’や‘身分’を表す語が補語になる時には、定冠詞をつけないことが多い。特に目的格補語の場合にはほとんど the をつけないとされる。なお、アメリカ合衆国は the United States (of America) である。このように、普通名詞を含む固有名詞には the をつける。 e.g. the United Kingdom

また、複数形の固有名詞にも the をつける。 e.g. the Netherlands

(5) in charge → in the charge

「その赤ちゃんはその看護師が担当している。」

in charge of ~ (～を担当して) と, in the charge of ~ (～が担当して) の区別は重要である。

(6) in so impressive manner → in such an impressive manner [in so impressive a manner]

「彼はあまりに印象深く物語を読んだため、皆感動した。」

‘such + a + 形容詞 + 名詞 = so + 形容詞 + a + 名詞’ となる。

Ex. She is such a sensitive girl that she often cries.

= She is so sensitive a girl that she often cries.

(彼女はよく泣いてしまうほど感受性に富んでいる。)

(7) An → A

「大学教育は望む者全てに利用できるべきだ。」

university の発音は [ju:] で始まるため、不定冠詞は An ではなく A である。

(8) by my sleeve → by the sleeve

「彼は私の袖をつかんで、私を行かせてくれなかった。」

‘動詞 + 人 + 前置詞 + the + 場所’ という構文がある (【3】参照のこと)。

Ex. He caught my arm. = He caught me by the arm. (彼は私の腕をつかんだ。)

【2】

ポイント

分析すれば不定冠詞にもさまざまな用法がある。実際すべてを覚える必要はないが、このような分類もできるという事実は知っておこう。

解答・解説

(1) e 「文法のいくらかの知識は、英語力の向上の役に立つだろう。」

他に for a while (しばらくの間) など。

(2) b 「日本の大学は、一言で言えば、『地上の楽園』である。」

他には Rome was not built in a day. (ローマは一日にして成らず。) など。

(3) a 「湖の向こうにレンガ造りの家が見える。」

この a は、軽い意味しかなく通常は訳出しない。

(4) h 「それを理解するのにアインシュタインのような天才は必要ない。」

他に A Takagi called in your absence. (高木さんとかいう人から不在中に電話がありました。) など。

(5) g 「私は週に3回、自由が丘のジムで鍛えている。」

週に1回なら once a week, 週に2回なら twice a week など。

(6) c 「猫は九生 (なかなか死なない)。」

他に, A bear hibernates. (クマは冬眠する。) など。

(7) d 「ある意味で、人生は夢にしかすぎない。」

この but は only の意味である。

(8) f 「その少年達は同じ年齢です。」

他に Birds of a feather flock together. (同じ羽を持つ鳥は集まる。→類は友を呼ぶ。) など。

【3】

ポイント

‘動詞+人+前置詞+ the +場所’という一連の構文があり、「人の～（場所）の部分をする」という表現になる。

Ex. He caught my arm. = He caught me by the arm.

上記はどちらも「彼は私の腕をつかんだ。」という意味だが、前者は彼の視点が私の腕に向かっているが、後者は私自身に視点が向かっている、というような若干の違いがあるとも言われている。ここでは、そのパターンについて学習しよう。

解答・解説

- (1) on the 「イーサンは優しく私の肩を叩いた。」
= Ethan patted my shoulder gently.
- (2) by the 「警官はその男の襟首をつかみ、オフィスから放り出した。」
= The policeman took the collar of the man ~.
- (3) in the 「私の顔を見てそう言ってください。」 = Look at my face and say that.
- (4) by the 「オリヴィアはオリバーの袖を引っ張って、『待って』と言った。」
= Olivia grabbed Oliver's sleeve, ~.
- (5) on the 「突然、りんごが頭に落ちてきた。」 = An apple hit my head.
- (6) on the 「私の犬が走ってきて、私の頬を舐めました。」
= My dog came running and licked my cheek.
- (7) in the 「そのボクサーは対戦相手の目の辺りを殴った。」
= The boxer hit the opponent's eye.
- (8) to the 「私たちはにわか雨に遭い、ずぶ濡れになった。」
○ get drenched [wet] to the skin 「ずぶ濡れになる」
- (9) to the 「冷たい風が私の骨身に染みた。」

【4】

A.

全訳

地球のエネルギーと資源は、実際は、無限ではなく、また我々人類が全体として自然環境に及ぼしている影響によって、人間自身もその一部である生命の連鎖の連続性そのものが脅かされているということが、最近になってようやく認識されるようになった。

B.

全訳

彼が目覚まして10分もたたないうちに、廊下を走ってくる足音を聞いた。そしてメアリーが戸口にいた。

C.

解答・解説

- (1) California
had given it [= the region] its name (その地域にその名前を与えた)とあり、その

地域の名前とは 'California' である。

(2) 「全訳」の下線部⑥を参照。

全訳

1848年に金がカリフォルニアで発見された。その時までには、スペイン人がその地域を探検して、その地域に名前をつけていたが、その名前は「かまどの熱」という意味である。しかし金が発見された翌年には、人々は大草原を横切る馬車道を作り、馬に乗って牛の一群を率いて山々を越えた。彼らはカリフォルニアでひと財産作るために出掛けた。これらの冒険者たち、すなわち「49年組」と呼ばれた人たちのうちの多くは探し求めに行った富を発見したが、⑥財産を作るとすぐにそれらを使ってしまうか、またはまったく財産を作らない人たちもいた。

[5]

解答

- (1) ダニエルはいつも一人で木と話している変わり者だということ。(29字)
- (2) 「全訳」の下線部②参照。
- (3) (A) **b** (B) **a** (C) **c** (D) **d**
- (4) 友達ができれば自分は今ほど変わり者だとは思われなくなること。
- (5) (ア) **d** (イ) **c**

解説

- (1) a running joke (広まっているジョーク) のネタになっているのは、筆者が休み時間になると必ず校庭の周りにある木のところへ行って一人ぼっちで立っていることである。ここで問われているのはジョークの具体的な内容。下線部の直後の、等位接続詞 and で結ばれた並列関係にある表現 common knowledge (周知の事実) に着目。common knowledge とは、Daniel talks to the trees と he is weird なので、この部分をまとめる。
- (2) この文の中心となる部分は、The sense weighed heavily on me. (次のような感覚が僕に重くのしかかっていた。) である。文頭の the は既出のものを受けているのではなく、of 以下で説明が続くことの予告をする働きをしている。2つの of はいずれも同格を表す前置詞で、2つの of 以下の動名詞句は並列関係にあるが、and がついていないのは2つの間に密接な関係があることを表すためである。or がつないでいるのは comfortable (気持ちのよい) と secure (安心した) という2つのプラスイメージの形容詞。逆に、and がつないでいるのは apart (離れた) と separate (分かれた) という2つのマイナスイメージの形容詞で、この2つは同意語を重ねたものと考えられる。

※同意語を重ねたものと考えられる部分の和訳の処理法

- ① 語義に忠実に訳し分ける
- ② 1つだけの訳にする
- ③ 強調する語句をつけ加える
e.g. tired and weary (疲れ切った)

○ somehow 「どういいうわけか」

(3)

(A) この long は自動詞で、long for ～で「～を熱望する」という意味になる。なお、long for A to do (Aが…するのを熱望する) という形でも使われる。この使い方は wait for ～と wait for A to do と同じパターン。

(B) look down on ～ (～を見下げる；軽蔑する) という表現がすぐに思い浮かぶと思われるが、ここでは単に「(下にある) 床を見る」という意味なので、look at ～というつながりて捉える必要がある。

(C) 同じ look だが、ここでは「～をじっと見る」という意味の他動詞になっていて、'look + 人 + in the face [eye]' で「人の顔〔目〕をじっと見る」という意味になる。これは 'hit + 人 + on the + 体の部分'、'catch + 人 + by the + 体の部分' などと同様の表現。

(D) the topic might not be …に続く部分を完成すると、「話題が相手にとって興味深いものではないかもしれない」という意味になる。'of + 抽象名詞' は形容詞の働きをするので、of interest が interesting の代わりに使われていることが分かる。なお、この of は「…という性質を持つ」という意味なので、a topic of interest と補うとさらに分かりやすくなる。

Ex. This product is (a product) of no practical use.

(この製品には実用性がない。)

(4) 下線部は「そのことが僕をどうにか、今ほど違わなくしてくれるだろう」という意味だが、無生物主語になっている it が何を受けているのか、僕が何と違うのか、less different という比較級に対応する than 以下はどうなっているのかを考慮する必要がある。it は直前の文にある to be friends with somebody (誰かと友達になること) を受けている。different が何との違いを述べているのかは、ここまでの流れでも十分に読み取れるが、次の文に the other children とあるので、different from the other children (他の子供たちとは違う) という意味合いになっていることが分かる。そうすると、different も実際には strange と同じ意味で使われていることも読み取れるはず。less different という比較級に対応する than 以下は、明白なので省略されている。ここでは、「今よりも」ということになる。

Ex. I have never been happier. (これ以上嬉しいことはない。)

ここでは和訳ではなくて内容説明なので、なるべく具体的にまとめる。

(5)

(ア) 空所直前の文では、筆者が話し出すと言葉が止まらなくなることが述べられている。そして、筆者が思いもよらなかったことが、会話中に「間を取る」ことと、空所に入ることになる。したがって、空所には会話が一方的にならないための作業が入ると判断できる。

a 「微笑みを交わす」 b 「助言をする」 c 「身ぶりをする」 d 「代わる代わる話す」

(イ) 筆者は話し相手が話題に興味を持っているかどうかにも気にせず、相手がそわそわして辺りを見回しても気づかず話し続けるので、結局は相手が愛想を尽かしてしまう、という状況から判断する。

a 「そんなつもりじゃなかった。」

b 「分かった。」

c 「もう行かなくちゃ。」

d 「それはいいね。」

僕は校庭の周囲に点在している木々の陰に一人ぼっちで立って、他の子供たちが走り回って大声を出して遊んでいるのを傍観していた覚えがある。僕は10歳で、自分が思うことを言葉で表せない、人が言うことを理解できないという点で僕は他の子供たちとは違うことを知っている。子供たちは騒々しく素早く動き回り、お互いにおつかり合う。僕は誰かが投げたり蹴ったりしたボールが宙を飛んできて自分に当たるのではないかと絶えず気にしている。これが、皆から遠く離れて校庭の端に立っているのを僕が好む理由の1つだ。僕は休み時間には必ずこうするので、すぐにそれはジョークとして広まり、ダニエルは木と話をする変な奴だということが周知の事実と見なされることになる。

当然ながら、僕は木と話をすることは決してなかった。返事のできないものと話をしても無意味だ。僕は飼ひ猫と話をしたが、それは猫は一応ニャーオと返事をしてくれるからだ。僕が校庭の木々の間で時間を過ごすのが好きだったのは、そこで物思いにふけりながら行ったり来たりできるし、押し倒されることを心配しなくてもよかったからだ。歩いていると、木の後ろに立てば存在を消せるように、ほんの一瞬感じられた。実際、消えてしまいたいと思ったことは何度もあった。僕はまるで間違った世界に生まれてきたかのように、どうしてもどこにもなじまないように思われた。②あまり心地よく感じることも安心することも決してないという感覚、常になぜか皆と離れていて浮いているという感覚が僕に重くのしかかっていた。

僕は自分が一人ぼっちであることを次第にますます強く意識するようになり、友達がほしいと思ひ始めた。クラスメートは全員、少なくとも1人は友達がいて、多くの者は何人か友達がいた。僕は夜ベッドに入っても何時間も寝ないで天井を見上げながら、誰かと友達になることはどういうことなのかを想像したものだった。友達ができれば、どうにか今ほど皆と違わなくなると思っていた。そうなれば、他の子供たちは僕をそれほど変わり者だと思わなくなると思った。弟や妹には何人か友達がいて、ときどき学校から弟妹と一緒に帰ってきたが何の役にも立たなかった。僕は庭を見渡す窓辺に座って、彼らが遊んでいるのを聞いていた。彼らがなぜ本当に興味深いこと、例えばコインや栗の木、数字、テントウムシについて話をしていないのかが僕には理解できなかった。

時にはクラスの他の子供たちが僕と話をしようと試みた。「試みた」と言っているのは、僕が彼らと話をするのは難しかったからだ。1つの理由としては、僕には何をしたらいいかも、何を言ったらいいかも分からなかったからだ。僕は話をする時はほとんど常に床を見ていて、目を合わせようとはしなかった。目を見上げることがあっても、相手が話をしている間に動いている口を見ていたのだ。時には、僕と話をしている先生が目を見るようにと言うことがあった。そうすると僕は頭を上げて先生を見るのだが、それには強い意志が必要で、奇妙で不快なものに感じられた。僕が誰かに話をする時は、長くて途切れのない言葉を延々と続けた。会話中に間を置くとか、代わる代わる話すとかは思いもよらなかった。

僕は決してわざと無作法なことをしていたわけではなかった。会話の目的が、自分が非常に興味があることについて話をする以外のものであるとは理解していなかった。僕は自分が言いたかったことがすっかりなくなるまで非常に詳しく話をしたし、もし話の途中で口をはさまれたら感情が爆発するように感じていた。僕が話している話題が相手にとっては興味か

ないことかもしれないとは全く思ってもいなかった。僕の話聞いていた相手がそわそわして、辺りを見回し始めても全く気づかずに、「もう行かなきゃ」などと言われるまで僕は話し続けていた。

注

- ℓ. 1 ◇ dot 「点在する」
- ℓ. 3 ◇ be different to ~ 「～と異なる」
 - イギリス英語では from の代わりに to も使われる。
 - ◇ in a way that … 「…という点で」
- ℓ. 4 ◇ bump into ~ 「～にぶつかる」
 - bump と push は同意語を重ねたものと考えられる。
- ℓ. 7 ◇ without fail 「必ず」
- ℓ. 8 ◇ perceive A as B 「AをBと考える」
- ℓ. 10 ◇ pointless 「無意味な；むだな」
- ℓ. 11 ◇ at least 「一応；とにかく」
 - ◇ meow 「ニャーオ」(猫の鳴き声)
- ℓ. 12 ◇ up and down 「行ったり来たりして」
- ℓ. 13 ◇ push ~ over 「～を押し倒す」
 - ここの push と knock も同意語を重ねたものと考えられる。
- ℓ. 14 ◇ for brief moments 「ほんの少しの間」
- ℓ. 15 ◇ there is no shortage of ~ 「～はいくらでもある」
 - ◇ I just did not seem to fit in anywhere
 - just は否定の強調をしている。
 - not fit in anywhere 「どこにもなじまない」
- ℓ. 21 ◇ what it might be like to be ~ 「～とはどういうことなのか」
- ℓ. 29 ◇ interact with ~ 「～と交流する；～と話をする」
 - ◇ for one thing 「1つの理由としては」
- ℓ. 31 ◇ did look の did は「本当に」という意味の強意の助動詞。
- ℓ. 33 ◇ willpower 「意志の力」
- ℓ. 34 ◇ unbroken 「途切れのない」
- ℓ. 35 ◇ sequence 「連続」
 - ◇ occur to ~ 「～の心に思い浮かぶ」
- ℓ. 37 ◇ purposefully 「わざと」
- ℓ. 38 ◇ other than ~ 「～以外の」
 - ◇ in detail 「詳しく」
- ℓ. 39 ◇ empty A of B 「A から B を取り除いて空にする」
 - これは deprive [rob] A of B (A から B を奪う), clear A of B (A から B を片付ける) などと同様、of が‘分離’を表す表現。
- ℓ. 40 ◇ mid-flow 「途中」
- ℓ. 42 ◇ carry on ~ 「～を続ける」

【6】

解答

- (1) 「全訳」の下線部①参照。
- (2) d
- (3) どこから：私が座っていた床のすぐ下から。
何の音か：私が殺害した（はずの）老人の心臓の音
- (4) d
- (5) 「全訳」の下線部③参照。

解説

- (1) in the country は「田舎に」であり、absent は「不在で」であるから、「田舎に出かけてしまいここには不在だ」ということ。
- (2) repose は自動詞で「休む；永眠している」という意味。つまり The corpse of the victim reposed beneath the spot. という文が含まれていることに気がつけばよい。その老人の遺体が、私が座っているまさにその下に横たわっていたことになる。
- (3) その後この音は次第に大きくはっきりとしていく様子が描かれている。最後になって、私は平静を装う警官たちに耐え切れずに告白する。「そうだ私がやった。ここの床板をはがしてみろ。これはあの老人の恐ろしい心臓の音だ。」と。
- (4) 目の前の警察官たちが、聞こえているはずの音を聞こえていないかのように振る舞い、私を嘲って愚弄している。こう感じた「私」の苦悩（この嘲笑）は「どんなものにも増して酷い」すなわち、「どんなものでもこの苦悩（嘲笑）よりはよい（耐えられる）」となる。nothing では意味が逆になるし、something では意味が弱い。
- (5) hypocritical smiles は「偽善的な笑い」つまり「作り笑い」のこと。I felt that I must scream or die! の直訳は「叫び声をあげるか死ぬか（のどちらか）をしなければならなかったと感じた。」であるが、「ここで叫び声をあげなければ死んでしまうと感じた」のように訳出してもよい。

全訳

私は微笑みました。というのは何を恐れるというのですか？ その紳士たちに「ようこそ」と言いました。あの悲鳴は夢の中で私が叫んだのでしょうか、と言いました。①老人は田舎に出かけて留守にしています。そう伝えました。そして訪問者に家じゅうを案内したのです。家の中を十分に調べて下さい、と言いました。ついには老人の寝室まで案内しました。警官達に老人の財宝を見せました。守られていて荒らされた形跡などありません。私は自信満々になって、部屋に椅子を持ち込んでここで疲れを癒して休んでいって下さいと申しました。完全に勝ち誇って大胆にも、私は老人の遺体が眠っているちょうど真上の場所に自分の椅子を置いて腰掛けたのです。

警官達は納得していました。私の態度がそう確信させていたのでしょうか。私は不思議な程くつろいでおりました。警官達は腰をおろして、私が元気良く答えると、彼らも馴染みの話をしてきました。しかし、間もなく、私は自分の顔が青ざめてくるのがわかって、早く立ち去って欲しいと思うようになったのです。頭が痛み、耳鳴りがしているような気がしました。けれども警官達は腰掛けてまだ話し込んでいました。その耳鳴りはますますはっきりしてき

ました。消え去ることなく、いっそうはっきりと聞こえてきました。この気持ちを消し去りたくてふんだんに喋りました。それなのに、耳鳴りは止まず、さらに明確に聞き取れました。そしてついに、この音は自分の耳の中で鳴っているのではないということに気付いたのです。

おそらくかなり青ざめていたでしょうが、私はさらに流暢に、そして語気を高めて話しました。それでも音はどんどん大きくなってきました。私は一体どうすればいいのでしょうか？それは低くて小刻みに鳴る音でした。綿でくるんだ時計から漏れてくるような音でした。私は息をするのも苦しくなりました。しかし、警官達にはこの音が聞こえてはいないのです。私はさらに早口に、もっと情をこめて喋りました。それでもやはり音は着実に大きくなっていきました。私は立ち上がり、つまらない話について、高い声でかなり激しい身振りを交えて、論じました。けれどもその音は着実に大きくなっていくのです。どうしてこの連中は帰ろうとしないのか？ その男たちの言葉に興奮して腹が立ってくると言わんばかりに、私は大股で足音を鳴らしながら、床中を行ったり来たりしたのです。でも、音は着実に大きくなってきます。ああ、神よ！ どうすれば良いのか？ 私は口から泡を飛ばし、うわ言を叫び、罵ったのです。自分が座っていた椅子をガタガタさせ、それを床板にこすりつけてキーキーと音をさせました、しかしその音は、ずっと高まり、大きくなり続けています。さらに大きくなりました！ もっと大きく！ いっそう大きく！ それなのにその男たちは楽しそうにしゃべって笑っているのです。この音が聞こえないことなんてありえるのか？ ああ、全能の神よ！ いやいや違う。聞こえている！ 疑っている！ 彼らは知っているのだ！ 私が怖がっているのを嘲り面白がっているんだ！ あの時はどう思ったのですが、今もこうだと思っています。どんなことだってこの苦悩よりはましだ！ こんな風に嘲笑の的にされるくらいならどんなことだって我慢してやる！ ③こんな作り笑いにはもう我慢できない！ わめき散らすか死ぬかのどちらかしかないじゃないか！ ああ、まただ！ よく聞こえる！ 大きく！ さらに大きく！ もっと大きく響いてきた！

「この悪党ども！」私は叫びました。「もうとぼけるんじゃない！ この私がやったのさ！ 床板をめくってみろ！ ここだ！ これがそうだ！ これがあの老人の恐ろしい心臓の鼓動だよ！」

【7】

ポイント

慣用表現などを通じて、a(n) と the の違いを認識しよう。

解答・解説

(1) a, the

「とある一つの明かり」なので a を入れる。「遠方に」は in the distance である。at a distance だと「少し離れたところに」となる（この a は some の意味）。

(2) the

the times で「時代」という意味になる。behind time だと「(時間に)遅れて」となる。

Ex. We are behind time. (私たちは遅れている。)

なお、「時代の先端に」は ahead of the times となる。

(3) the

この the time は‘現在時刻’を表す。Do you have time? は「時間がありますか。」であるが、Do you have the time? は「今何時ですか。」である。

(4) a

○ as a whole 「全体として」 cf. on the whole (概して)

(5) the

to the minute は「寸分違わず;きっかり」である。in a minute だと「すぐに(1分後に)」となるので注意。

Ex. I'll be with you in a minute. (すぐにそちらに参ります。)

【8】

ポイント

定冠詞の注意すべき用法を、整序英作文を通じて学習していこう。

解答・解説

(1) The dead may live in the memory of the living.

「死者は生きている人の記憶の中に生きているのかもしれない。」

‘the + 形容詞’ = ‘形容詞 + people’ となる。つまり, the dead = dead people, the living = living people になる。

(2) All of us are intuitively afraid of the unknown.

「私たちは皆、本能的に未知なるものに恐れを抱く。」

○ ‘the + 形容詞’ = 抽象名詞で, the unknown は「未知なるもの」の意味。

(3) A decade ago I used to pay for my Internet connection by the minute.

「10年前、私はインターネット接続料を分単位で支払っていました。」

○ ‘by the + 単位’ 「～単位で」

Ex. We buy meat by the gram. (私たちは肉をグラム単位で買います。)

【9】

ポイント

冠詞に関する入試レベルの実戦演習を行う。特にBでは「了知している事項かどうか」に気をつけて a を用いるべきか the にすべきかを判定していこう。

A.

解答・解説

(1) an 「私たちは息子がアインシュタインのような天才(学者)だったと思う。」

○ an Einstein 「アインシュタインのような天才(学者)」

(2) the 「彼はこの国のアインシュタイン[天才]と呼べるかもしれない。」

of this country という修飾句によって限定されたため the になる。

(3) ×, × 「彼はその日暮らしをしていた。」

live from hand to mouth は「その日暮らしをする」という定型表現。

(4) ×, × 「私は1組の夫婦が腕を組んで出てくるのを見た。」

○ arm in arm 「腕を組んで」

e.g. day after day 「来る日も来る日も」, step by step 「一歩ずつ」, face to face 「面と向かって」

B.

解答・解説

(1) A

a hundred years 「100年」。この a は「1」の意味。

(2) the

‘the only + 名詞’で「唯一の～」となる。この only は形容詞。

(3) ×

公園名（固有名詞）には the をつけない。*e.g.* Central Park, Ueno Park

(4) ×

国名（固有名詞）には the がつかないのが原則だが, the Philippines, the United States of America などの例外もある。

(5) a

few だけでは「ほとんど～ない」と否定的なニュアンスになるが, 本文の内容からすれば a few と肯定的にすべきである。

(6) a

dry riverbed は了知している特定の川底ではないため, a を用いて導入する。

(7) ×

game hunters も了知した特定のハンターとは言えないため, 冠詞は不要。(本問は設問の都合上小文字になっているが, 本来は Game hunters となる。)

(8) the

「～世紀」と言うには ‘the + 序数詞 + century’ となる。

(9) the

第1文の elephants を指していることから, 了知事項として the をつけなければならない。

(10) ×

extinction (絶滅) は抽象名詞であるため冠詞は不要。

全訳

100年前, 開園したばかりの南アフリカ共和国にあるクリューガー国立公園で, 象の存在を示す唯一の印は, 乾燥した川底に遺された2, 3の足跡だけだった。19世紀の動物狩りハンター達はその生き物を狩り, ほぼ絶滅状態にしてしまったからである。

添削課題

【1】

解答例

It's really cold. Would you like my jacket? [8 words]

【2】

解答例

(1) 地球の表面積の3分の2は、水で覆われている。

Two thirds of the earth's surface is covered with water.

(2) 病気でない限り学校を休んではいけない。

On no account must you absent yourself from school unless you are ill.

(3) 私が上京して1ヶ月も経たないうちにその地震が起きた。

I hadn't been in Tokyo even a month before the earthquake happened.

(4) とんでもないミスをしたかもしれない。人が普通嫌がる役目なんて引き受けなければよかったけど、後悔先に立たずだね。

I may have made a ridiculous [horrendous ; gross] mistake. I wish I hadn't undertaken [take on] the role people usually dislike, but it's too late for regrets, right?

(5) 私が大変驚いたことに、つまらない冗談しか言わないだろうと予想するのも無理もないコメディアンが、全員を涙を流して笑わせる冗談を言ったのだ。

Much to my surprise, the comedian, who we [one] might expect would say nothing but a flat joke, actually said one that made us all laugh into tears.

別解 Much to my surprise, the comedian, who you might expect would tell nothing but boring jokes, told jokes that had everyone in tears of laughter.

別解 Much to my surprise, while we could be excused for expecting him to tell only lame jokes, the comedian told jokes that had everyone in tears of laughter.